

# 女子短期大学での衣生活教育に関する考察

—— 家庭での衣生活意識 ——

野 村 房 子\*

## Observations on Clothing Designing Education for Women's Junior College Students

—— Clothing Awareness in the Homes ——

Fusako NOMURA

### I. は じ め に

科学技術の進歩と高度経済成長によって、多種多様な既製服が氾濫し、衣生活面での衣服に対する価値感を変化させている。

本報では、女子短大生の服装教育の在り方を検討する手がかりを得る目的で、女子短大生の家庭での服装の実態を調査し、衣服に対する意識を考察した。

女子短大生の起床から就寝までの時間帯において、個人のライフスタイルと服装との関連を調査検討した結果、帰宅後制服を着がえて就寝まで在宅している学生の服装と、それ以外の学生との間には顕著な差がみられた。したがって、女子短大生の家庭における衣生活を通して豊かな人間性を育てるためには、個別ライフスタイルに適した服装を選択する必要がある。

### II. 調 査 方 法

広島文化女子短期大学生活文化学科生活デザインコース41名（平成元年2月16日調査）と服飾デザインコース44名（平成元年2月21日）の学生計85名を対象に調査した。

調査の方法は、「皆さんの一日の服装について考えてみましょう。昨日の起床から就寝までの間に何の目的でどのような服装をしたかについて思い出して下さい」と口頭で伝えた後、用紙を配布した。記載上の注意事項として「時間刻みに生活および服装をイラスト入りでわかり易く書いて下さい。また、その表現方法

表1. 帰宅後に着がえた衣服の種類と着用率

種 類	着用率(%)
トレーナーズーツ	4
トレーナー ジーンズ	13
トレーナー ジーンズ カーディガン	2
トレーナー スウェットパンツ	6
トレーナー スカート	1
スウェットズーツ	2
スウェットズーツ はんでん	1
セーター スカート	5
セーター ジーンズ	6
セーター カーディガン ズボン	2
セーター カーディガン ジーンズ	1
ブラウス セーター ジーンズ	4
ブラウス カーディガン ジーンズ	2
ポロシャツ セーター スカート	1
Tシャツ ジーンズ はんでん	1
Tシャツ ズボン	5
Tシャツ セーター ズボン	2
Tシャツ セーター ジーンズ	3
Tシャツ カーディガン ジーンズ	1
セーター はんでん パジャマのズボン	1
ホームウエア	13
ネグリジェ	1
パジャマ	11
パジャマ 上衣	5
パジャマ カーディガン	1
パジャマ はんでん	5
パジャマ セーター はんでん	1

\* 生活文化学科

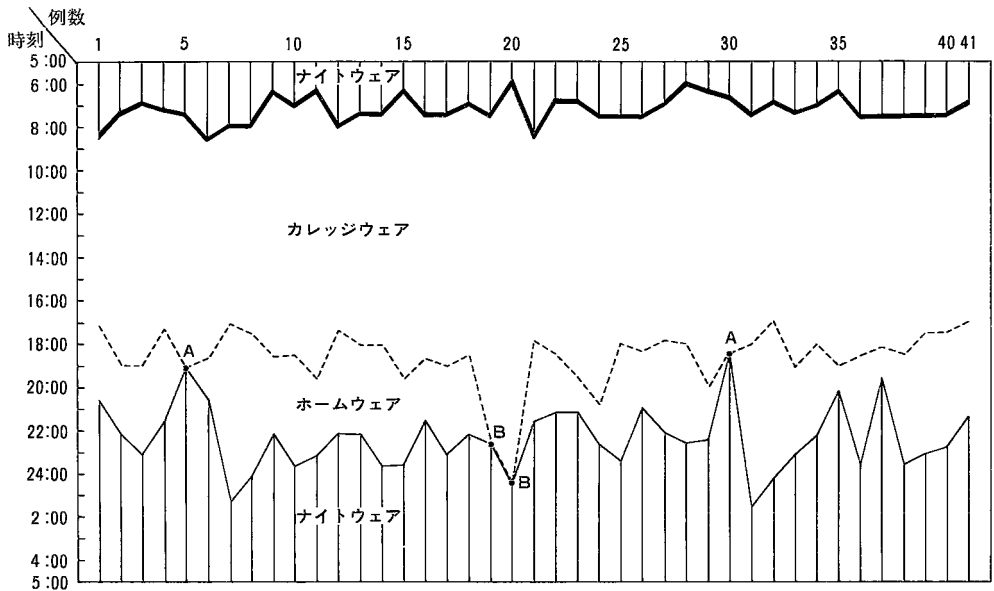


図1. 女子短大生の起床から就寝までの家庭における服装（生活デザインコース）

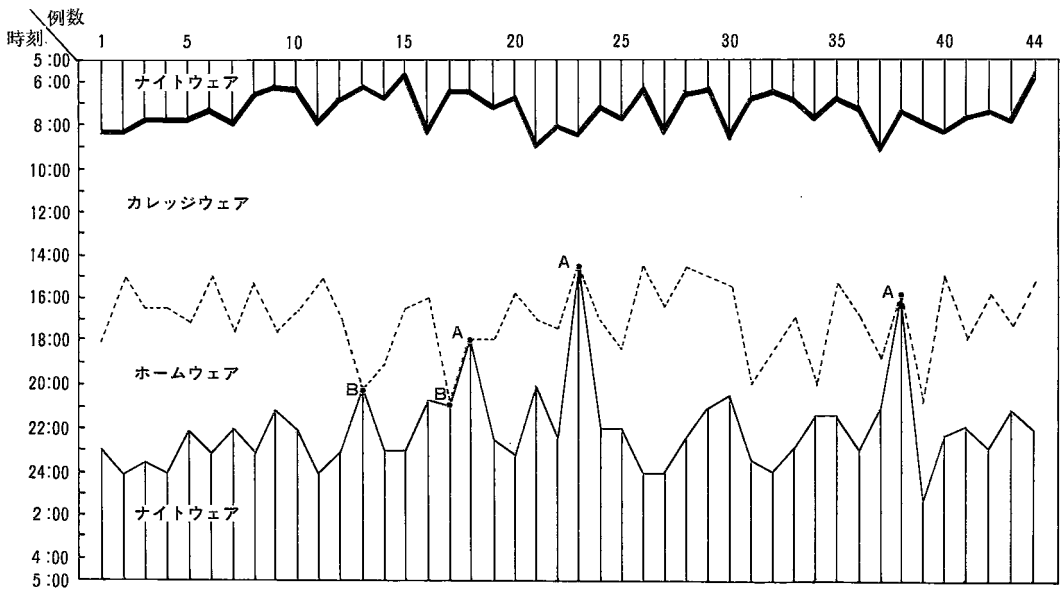


図2. 女子短大生の起床から就寝までの家庭における服装（服飾デザインコース）

は円グラフでもよく、自由に表現して下さい。」と伝えて、60分間で記入させた。

### III. 調査結果

85名の女子学生が、帰宅後に着がえたウェアの種類とその着用率、との関係を表1に、また、各コースの

学生について起床から就寝までの家庭における服装との関係を図1および図2に示した。

### IV. 考察

調査内容は、漫画的あるいはイラスト的に表現されてはいたが、調査日が昨日というもっとも記憶に新し

もののだけにいずれも正確に記入されている。

起床時刻は、通学時間およびその日の授業時間などに左右されていると思われる。起床例数は、〈6:30~7:00〉が44%でもっとも多く、〈7:10~8:00〉が40%であり、〈6:30~8:00〉の起床例数が84%である。また就寝例数〈23:00~24:00〉が43%でもっとも多く、〈22:00~1:00〉が82%である。

図1および図2の各起床時間帯はナイトウェアからカレッジウェアに着がえた時間帯であり、就寝時間帯はホームウェアまたはカレッジウェアからナイトウェアに着がえた時間帯である。図1および図2の各A点は、帰宅後カレッジウェアからホームウェアであるスウェットスーツに着がえそのままナイトウェアとしている例数、またはカレッジウェアからナイトウェアであるパジャマに着がえた例数で、図1は2例、図2は3例である。また、図1および図2の各B点は、何らかの理由で帰宅が遅くなり、カレッジウェアからただちにナイトウェアに着がえる例数である。各2例である。

表1のように帰宅後に着用する衣服の種類としては、スカート形態が20%である。これとは対照的にズボン形態が80%を占めていることは、冬季という时期的な影響とも考えられるが、むしろその要因としては生活面での機能性に重点をおくという20才前後の女性の傾向として注目に値する。合理的に簡便化された女子短大生の衣生活には、帰宅後に着用する服装の多様性をもっと出している。このことは、帰宅した後入浴し、ただちにパジャマを着用してその上に何かを羽織って、くつろぎ着としたり、パジャマ兼用のスウェットスーツを着用することによるものと考察する。

帰宅後ホームウェアなどに着がえるという従来の衣生活における習慣やライフスタイルは簡略されているのが現状である。

以上の考察結果から、女子短大生の家庭での衣生活教育の在り方として、現状の簡略化された衣生活の中にも先人の衣生活の知恵として継承してきた日本の衣文化を伝承しつつ、これを更に現代の多様化時代に適応させ、より発展させるよう検討する必要がある。

## V. 要 約

女子短大生の家庭における服装の実態を自由な表現方法で調査した結果をまとめると次の通りである。

1) 起床例数は、〈6:30~8:00〉が84%で、就寝例数は、〈22:00~1:00〉が82%で、もっとも多い。

2) カレッジウェアから着がえる服装には、スカート形態が20%に対し、ズボン形態が80%と多くみられたことは評価できる。

3) 調査前には、A点は皆無と推察していたが、2例(図1)および3例(図2)が観察されたことは予想外である。A点にみられる傾向は、服装の多様化とも考えられるが、特殊な理由を除いては、衣生活のけじめとしては好ましいとはいえない。

4) 古くから、服装はその人を現わすといわれている。一日の生活の中にも公と自由と社交とにおいてそれぞれ服装が異なるはずである。現代は余りにしなくてもよいとか、多様化時代なのだからとか世間ではいわれている。しかしながら我が国の伝統的な先人衣文化を継承しつつ服装のデザインを指導する者としては、今後の授業内容にこれらをどのように適応させるかは、考えるべき課題である。

## 謝 辞

本研究に当たり終始御助言いただいた元広島文化女子短期大学被服学科教授藤田光子先生に深謝いたします。

## Summary

The purpose of this paper is to understand what kind of clothing designing education should be given to women's junior college students.

A survey was conducted for consciousness on wearing clothing awareness in the homes. The student's answers had a lot of varieties, because they were not asked to answer in a certain way. In fact, many of the student drew pictures in the questionnaires.

The results obtained are as follows:

1) Concerning a practical function, home dresses are greatly convenient in their life patterns.

2) More students stated that they enjoyed wearing clothes and wanted to develop a different flavor in choosing ready-made clothes. However, fewer students stated that they wanted to learn the basic dressmaking skills.